



Daiwabo Holdings Co., Ltd.

第111期 中間ビジネスレポート
2021年4月1日～2021年9月30日





ダイワパワーホールディングス株式会社
代表取締役社長

西村 幸浩

株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、中間ビジネスレポートをお届けするにあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

業績について

第111期(2022年3月期)第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部で持ち直しの動きが見られたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況が続きました。そのような中、当社グループは、本年より新中期経営計画(2022年3月期～2024年3月期)をスタートさせました。本計画の対象期間を「将来にわたる発展を見据えた転換期」と捉え、グループ基本方針として「次世代成長ドライバーの創出」「リーディングカンパニーとして新たな社会作りへの貢献」「経営基盤変革」を掲げ、次なる時代に向けた成長戦略と事業を通じた社会貢献の実践による企業価値の向上に取り組んでおります。

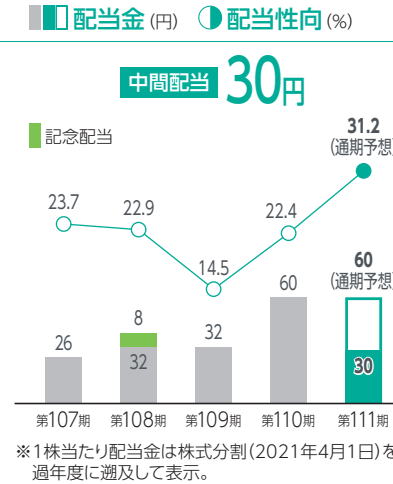
当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は3,506億68百万円、営業利益は98億6百万円、経常利益は98億83百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は70億15百万円となりました。

当期より中間配当を開始

株主の皆様への利益還元を充実させるため、当期より中間配当を実施し、1株当たり中間配当金30円、期末配当金30円の年間配当金60円を予定しております。

自己株式の取得状況

取得総数	普通株式 約104万株/1.08%※ ※発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合
取得総額	約20億円
取得期間	2021年5月14日～ 2021年8月31日



経済産業省が定める「DX認定」を取得



新たな価値を創出するソリューションおよび製品・素材の提供などを通じて、社会インフラの抜本的な効率化やスマート化に向けたDXの推進に積極的に取り組んでまいります。

今後の見通しと取り組み

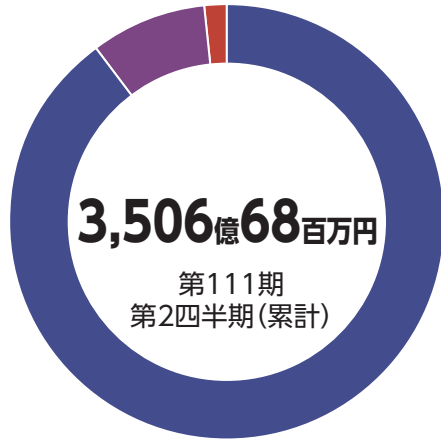
2022年3月期の見通しといたしましては、新型コロナウイルス感染症をはじめ、世界的な半導体不足や原燃料・資材等の高騰などの影響が懸念され、引き続き不透明な状況にあります。このような環境の中、当社グループは、次なる成長の原動力を生み出し飛躍につなげるため、ビジネスモデル変革への挑戦、ESG視点による事業を通じた社会課題解決への貢献をめざし、今後、更なる拡大が期待されるクラウドサービスビジネスなど新たな需要を的確に捉えることで、売上高8,200億円、営業利益285億円を計画しております。

あわせて、DX(デジタルトランスフォーメーション)をキーワードに、あらゆる分野のデジタル化が一気に加速する中で、その潮流を捉えたビジネス展開を強化してまいります。当社は「DX認定」事業者として、グループを挙げて社会インフラのDXを推進することで、新たな成長につなげていきます。

そして株主様への還元につきましては、継続的かつ安定的な利益還元を基本方針に掲げ、当期より中間配当を実施いたします。2022年3月期中間配当金は、1株当たり30円とさせていただきます。また、中期経営計画における株主還元策の一環として、当期に約20億円の自己株式を取得しております。

最後に、2022年4月4日に移行が予定されている新市場区分について、当社は「プライム市場」を選択申請いたしました。当社取締役会においては、独立社外取締役が過半数となり、女性取締役の選任も含めて、取締役会の独立性・多様性の確保に先行して取り組んでおります。「プライム市場」への移行を通して、今後もコーポレートガバナンスの強化と、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様には引き続き倍旧のご支援とご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。



売上高構成比



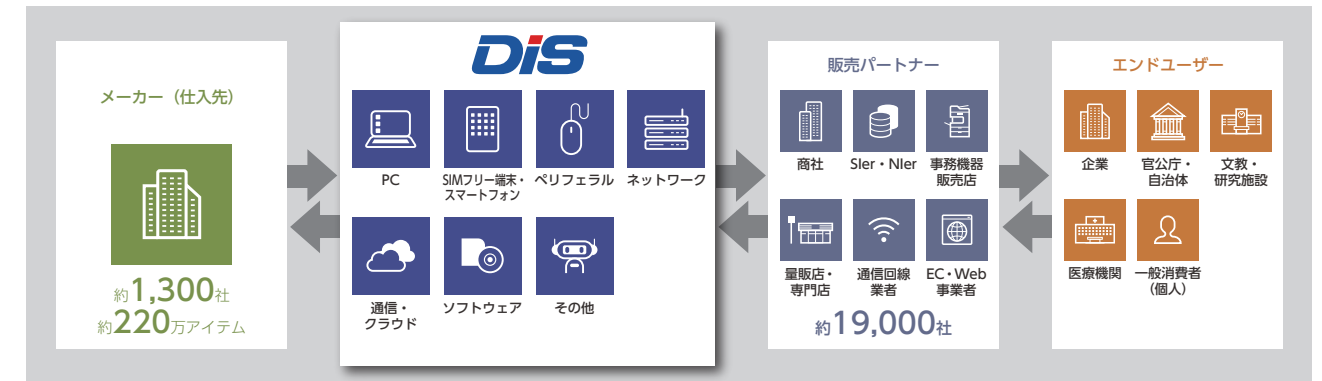
ITインフラ流通事業	ディストリビューション	ダイワボウ情報システム(株)	
	サービス&ソリューション	ディーアイエスサービス&ソリューション(株)	
繊維事業	合織・レーヨン	大和紡績(株)	ダイワボウレーヨン(株)
	産業資材		カンボウプラス(株)
	衣料製品		ダイワボウアドバンス(株)
産業機械事業	工作機械	(株)オーエム製作所	
	自動機械	(株)オーエム機械	
	鋳造・加工・組立	オーエム金属工業(株)	

ITインフラ流通事業

国内最大級のディストリビューターとしてIT環境をトータルにサポート

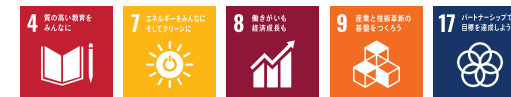
ITインフラ流通事業は、ダイワボウ情報システム(DIS)グループが運営する事業です。DISは独立系マルチベンダーとして、お客様のニーズに合わせて最適なソリューションを提案し、世界中のIT関連商品・サービスをあらゆる組み合わせで提供しています。どの地域のお客様にもFace to Faceできめ細やかに対応できるよう、日本国内をカバーする営業拠

点と物流拠点を展開。全国の販売パートナーを通じて、民間企業や官公庁・自治体、学校、医療機関、一般消費者など、幅広く利用されるIT関連商品をお届けします。時代の変化に即応しながら、万全のサービス&サポートで、多様化・高度化するニーズに応え続けていきます。



事業を通じた社会課題解決への貢献機会

- 全国の営業拠点網によるIT化推進の取り組み
- 教育の情報化に向けた取り組み
- サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」での新たなビジネス共創の場の提供



iKAZUCHI(雷)掲載サービス
76ベンダー/163サービス
(2021年9月現在)

「iKAZUCHI(雷)」は、DISが提供するサブスクリプション管理ポータルです。サブスクリプション型(継続課金型)ビジネスは、低コストで最新サービスが利用できるため、幅広い分野で普及・拡大が見込まれています。販売パートナーは「iKAZUCHI(雷)」を利用することで、クラウドサービスを中心としたサブスクリプションビジネスにおける注文工数が削減され、年額・月額・従量制などのさまざまな継続型契約や、ユーザー情報の一元管理が可能になります。

繊維事業



衣料・生活用品から産業資材まで高付加価値を追求する繊維メーカー

素材としての用途の広がりや循環型社会への対応など、多様な可能性を持つ繊維の事業フィールドで、研究開発に力を入れ、サステナビリティに配慮した素材や機能性・独自性のある素材を生かした高付加価値な商品を生み出しています。衣料品のほか、紙おむつの材料といった生活資材から建設現場の防水シートなど産業資材まで取り扱い分野は幅広く、その提供形態も原綿や不織布、最終製品まで多岐にわたります。

事業を通じた社会課題解決への貢献機会

- 生分解性繊維など環境負荷低減に貢献する商品開発
- カセイソーダ不使用の染色加工技術など水使用量の削減、環境負荷低減のプロセス開発



産業機械事業



あらゆる業界の製造機械に変革をもたらす「匠の精鋭技術集団」

航空・宇宙分野をはじめ、あらゆる産業のマザーマシンとして活躍し、長年にわたる技術・技能の伝承により厚い信頼を得ている「立旋盤」や、鉄道の安全と乗り心地を支える「車輪旋盤」などの工作機械と、食品や製薬などの幅広い業界で活躍する自動包装機を主に製造販売しています。時代を先取りし、独創性を持って、高い技術力が生み出す高精度な機械を提供することで、多様化するユーザーニーズに確実に応えています。

事業を通じた社会課題解決への貢献機会

- 航空機エンジンやエネルギー分野向け、鉄道車輪メンテナンス用の工作機械などを通じてモノづくりの技術と品質を提供

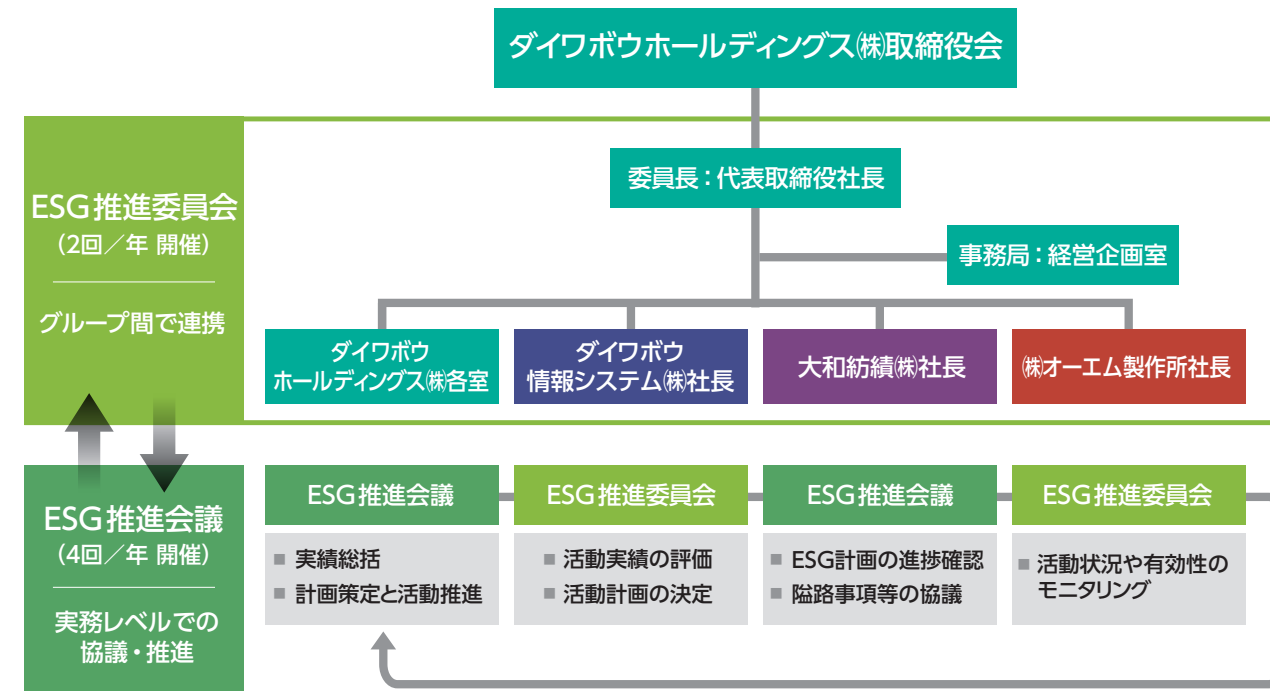


ダイワボウグループのESG

ダイワボウグループは、基本姿勢、存在意義、価値観を表明した「グループ経営理念」、「グループ企業行動憲章」を制定しており、ESGに関する考えもこれらの中にも含まれています。グループとして全てのステークホルダーとともに、【地球環境】との調和を図りながら、豊かなより良い【人間社会】を築くことが私たちの使命です。私たちはグループ経営理念、企業行動

憲章のもと、【お客様第一】を経営の根幹に、環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance) (以下「ESG」といいます。)への配慮が企業価値向上に資するものと考え、ESG活動を「サステナビリティ・アクション」としてグループ全社において持続的な成長を遂げるため取り組んでまいります。

ESG推進体制 グループが一丸となってESGを推進する体制を構築



ESGへの取り組みの詳細につきましては、こちらもご参照ください。
<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/sustainability.html>



連結業績ハイライト

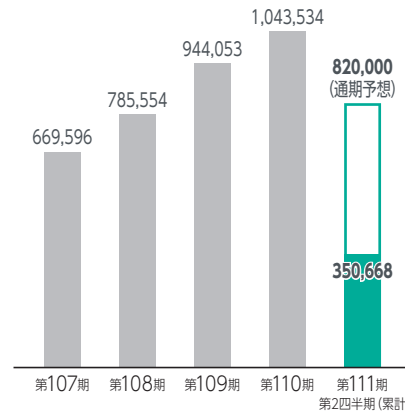
The first

2021.4.1▶
2021.9.30

売上高 (百万円)

3,506億68百万円

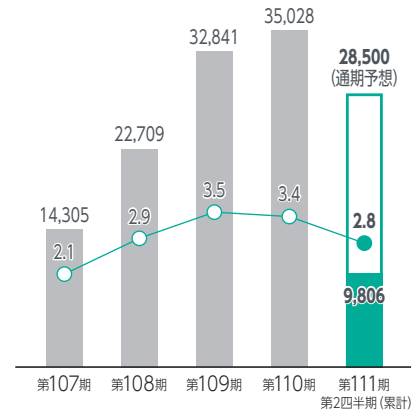
※収益認識に関する会計基準の適用
影響額：△331億35百万円



営業利益 (百万円) ● 営業利益率 (%)

営業利益 98億6百万円

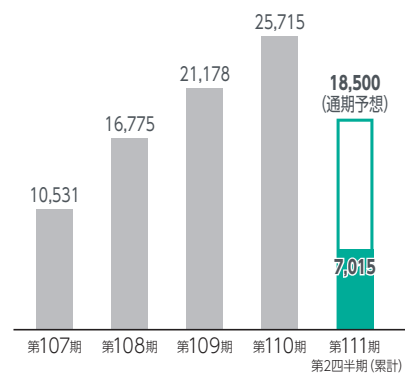
前年同期比 9.6%減 ↓



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)

70億15百万円

前年同期比 20.3%減 ↓

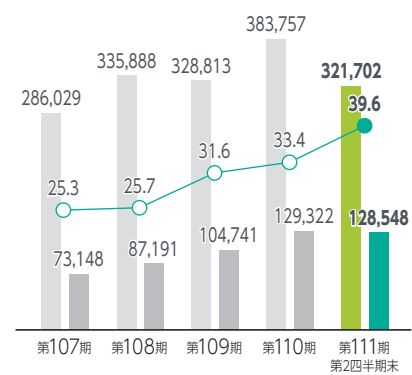


総資産 ● 純資産 (百万円)

● 自己資本比率 (%)

自己資本比率 39.6%

前期末比 6.2pt増 ↑



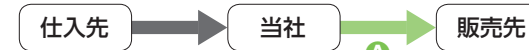
第111期第2四半期連結累計期間業績の補足

「収益認識に関する会計基準」変更の適用を開始

ITインフラ流通事業の一部取引について売上高の計上方法が変更

主な変更点 代理人取引に係る収益認識

旧基準：販売対価の総額Aを売上計上

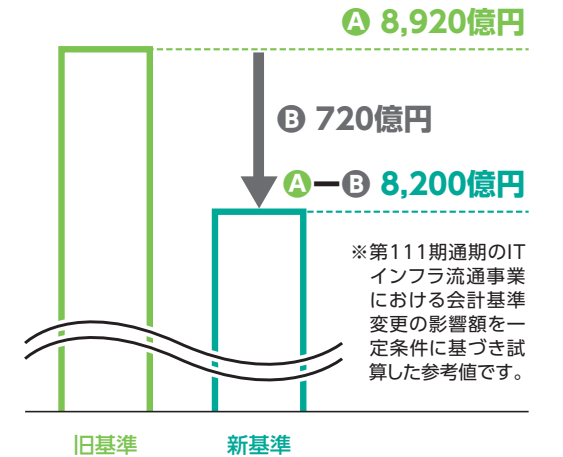


新基準：販売対価の純額A-Bを売上計上



ITインフラ流通事業における**保守・保証サービス、ソフトウェア(継続課金等)販売などの取引の一部**について、販売先への商品・サービスの提供における当社の役割が、会計基準上の「代理人」に該当するため収益認識の方法を変更。

第111期連結売上高 (通期予想)



「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第111期の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。主な変更点として、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、当期より顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識しております。

なお、当該会計基準変更の主な影響は、ITインフラ流通事業の一部取引における売上高に対してのみであり、営業利益に対する影響は軽微です。

〈第111期第2四半期(累計)における会計基準変更の影響額〉(百万円)

	旧基準	新基準	影響額	新基準で比較した場合の前年同期比
連結売上高	383,804	350,668	33,135	△10.6%
ITインフラ流通事業売上高	348,291	315,155	33,135	△11.1%

事業別概況

ITインフラ流通事業

売上高

3,151億55百万円

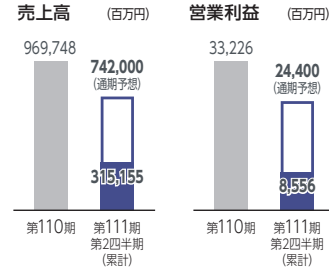
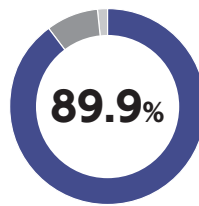
※収益認識に関する会計基準の適用
影響額：△331億35百万円

営業利益

85億56百万円

前年同期比 20.4% 減

売上高構成比



企業向けは、サブスクリプション型サービスの契約数が増加し、オフィス環境の整備によるモニタ販売等が好調ながらも、PC販売等は低調に推移しました。文教市場は、前期のGIGAスクール構想に伴う端末出荷と比較して減収となりました。コンシューマ向け市場は、前期と比較してPC・周辺機器の販売が減少しました。

繊維事業

売上高

293億60百万円

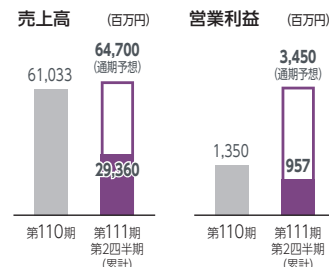
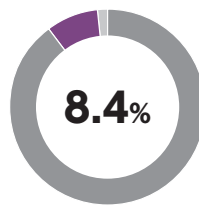
前年同期比 5.8% 減

営業利益

9億57百万円

前年同期 1億94百万円の営業損失

売上高構成比



建材用などの合繊原綿や環境負荷の少ないレーヨンが堅調でしたが、除菌関連需要の反動に加えて産業資材・衣料品等の販売が継続して低迷しました。

産業機械事業

売上高

57億27百万円

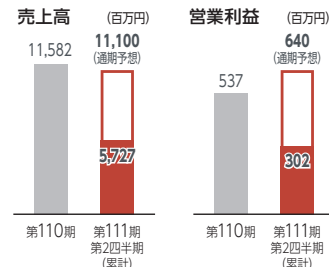
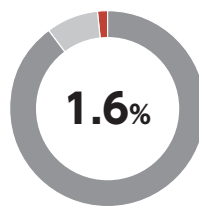
前年同期比 4.4% 減

営業利益

3億2百万円

前年同期比 19.5% 減

売上高構成比



受注環境の回復が見られ、改造・部品交換などのサービス売上も増加したものの、前期の受注減少と資材価格高騰の影響を受けて減収減益となりました。

会社概要

(2021年9月30日現在)

社名 ダイワボウホールディングス株式会社
 資本金 21,696,744,900円
 創立日 1941年4月1日
 事業拠点 本社
 大阪市中央区久太郎町3丁目6番8号
 御堂筋ダイワビル (〒541-0056)
 TEL.06-6281-2325

連結従業員数 5,861名

代表取締役社長	西村幸浩
常務取締役	辰巳敏博
取締役	安田充成
社外取締役	土肥謙一
社外取締役	中村一幸
社外取締役	吉丸由紀子
社外取締役	藤木貴子
常勤監査役	小野正也
社外監査役	藤木久
社外監査役	植田益司

株式の状況

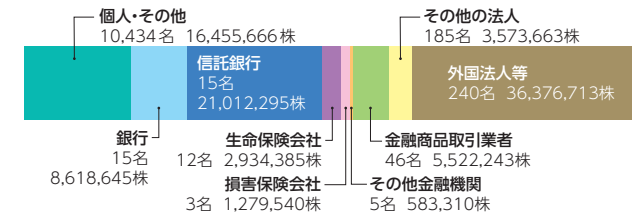
(2021年9月30日現在)

発行可能株式総数 200,000,000株

発行済株式の総数 96,356,460株

(注) 上記のうち1,253,090株を自己株式として保有しております。

株主数 10,955名



※当社は、普通株式1株につき5株の割合をもって、2021年4月1日付で株式分割を行いました。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日

基準日 毎年3月31日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 ☎0120-094-777 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所

公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL
<https://www.daiwabo-holdings.com/>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取次ぎいたします。

オンライン開催

参加無料

野村IR資産運用フェア2022に出展いたします。

2022年1月7日(金)・1月8日(土)

ウェブサイト
オープン期間

2022年1月7日(金) 8時～1月31日(月) 15時

主催
共催

野村インベスター・リレーションズ株式会社
野村証券株式会社

参加方法

こちらのURLから無料で参加登録ができますので、是非ご参加ください。
<https://fair.nomura-ir.co.jp/>

会社案内ビデオ



グループ広報誌
DAIWABO HOLDINGS
Digest



Corporate
Profile 2021



IR・投資家情報

個人株主・投資家の皆様へ (5分でわかるダイワボウグループ)
中期経営計画／業績・財務
IRライブラリ／株式情報
IRカレンダー／IRニュース
IRポリシー／よくあるご質問
電子公告

ITインフラ流通事業
繊維事業
産業機械事業

事業紹介



サステナビリティ

環境活動
社会活動
ガバナンス
マテリアリティ (重要課題)
ISO取得状況

ご挨拶／グループ理念体系
会社概要／役員一覧
沿革／グループ広報誌
広報・企業広告ライブラリ

会社情報

各詳細につきましては、当社ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ダイワボウホールディングス株式会社